

石重忠徳 陸軍軍醫。弘化二年二月十一日陸奥國津達郡生れ、
 昭和十六年四月二十六日歿（八四—一九四一）。舊姓平野、幼名庸太郎、
 初名忠恕、忠徳、通稱極太郎。號況翁、況翁忠、況齋、半月庵。元治
 元年江戸でオランダ醫學を學び、翌年醫學所設けと共に入り西洋醫學
 を修めた。のち大學東校に出任、大助教。明治二年ホフマンを招聘、
 ドイツ醫學を導入して我が國醫學の方向を定め、軍醫となつて陸軍軍
 醫制度の制定に關與、軍衛衛生の基礎を作つた。陸軍軍醫總監、陸軍
 省醫務司長を歴任。貴族院議員、樞密院顧問官、大正六年日本赤十字
 社社長に就任。工學勲。
 著書に『長壽法』（明治六年十一月有喜書屋刊）、『況翁朋話—附況
 翁談片』（明治二十四年十一月十一日博文館）、『考錄—況翁朋話後
 編』（大正十二年八月一日實業文日本社）、『明治天皇御聖徳』に就
 して（大正十五年六月一日）陸軍士官學校高等官講義所「陸軍士官學
 校生徒課外講演」等。

